

輝き

三木市立三木特別支援学校 学校通信 No.6 令和5年11月1日

インフルエンザ流行第1波が 過ぎました

市内学校園でインフルエンザが流行しています。本校でも10月16日から急に感染者が増え、結果的に20日まで中学部を閉鎖する事態になりました。この間も小学部の児童への感染拡大はなく、元気に登校していました。感染されたお子さんについても、そうでないお子さんについても、ご家庭で適切に対応していただいたおかげで、週明けからは元気に登校できており、ホッと安心しています。皆様のご協力に感謝いたします。ありがとうございました。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の直接的な影響はほぼなくなっていますが、今回のインフルエンザの早期流行のように、コロナ禍以前にはなかった現象が今後起きるかもしれません。今回のことを教訓に、子どもたちの安全・安心を第一に、予測できない事態にも柔軟に対応していきます。

後期の学習が始まりました

本校は通知表と個別の指導計画の評価を前期と後期の2回で行っています。9月末に前期の評価を本人・保護者にお渡しし、10月から後期の計画を立てて実施しています。

個別の指導計画を立てる上で、保護者の皆様と十分な情報交換を行っているつもりですが、もし実態や取組内容についてご意見がある場合は、遠慮なく担任を通じてお伝えください。それと、1点だけお断りをします。教員は日々工夫を重ねながら学習に

あたっています。工夫を重ねることによって、当初の計画とは違った取組や方向性の変更が生じることが考えられます。そのことを知っておいてほしいです。

私は教員に、個別の指導計画は保護者とやりとりをするための1つのツールである。個別の指導計画に書いたことにしぼられず、何か楽しいこと、何か新しいことを子どもや保護者と一緒に見つけてほしいと伝えています。個別の指導計画を元にしながら、状況に応じて柔軟に対応し、楽しく学校生活を子どもと教員が共に送ることを願っています。

高校生の時の講演から

高校生の時に、止揚学園(滋賀県)の園長である福井達雨先生の講演がありました。止揚学園は知的障害のある方が暮らす施設で、福井先生は一人で学園を立ち上げ運営されていました。全校生が体育館に集められ、とてもパワフルなお話を聞きました。詳しい内容は覚えていませんが、先生の障がいのある方への愛情の深さと、障がいのある方を尊敬する気持ちに大きく心を動かされたことを今でも覚えています。先生の著書「アホかて 生きているんや」は私が初めて読んだ障害者福祉の本です。読書の秋、もう一度読み返し、初心を思い出したいと思っています。



校長 橋本 泰一